

## ボランティア活動を通して、 自己表出できる子の 育成をめざす

愛知県渥美町立亀山小学校  
つるみみよこ  
鶴見美代子

### 【実践の内容】

六年生14名の一人一人が主役となり、ボランティアの意味を考え、試行錯誤しながら成長する授業である。「最高学年として全校を動かす活動や、お母さんの家庭での仕事が、ボランティアなのであろうか。」子どもたちは、悩みはじめた。地域ボランティア実践者や社会福祉協議会の方々のアドバイス、道徳の授業などを道しるべとし、本物の実践へと動き出した。自分の思いだけを押し通すのではなく、人とかかわりの中で、何を感じ、どう動き出すか。子どもたちは、自分たちが納得するまで、活動を続けた。ボランティア活動への「初めの一步」である。

### 【論文内容の紹介】

#### 1 研究のねらい

本気になって、「自分を表出したい。」と動き出すために、次のような仮説をたてた。

- ①進んでボランティア活動をすることにより、子どもの思いや願いが深まり、ねばり強く活動を続けるであろう。
- ②一人一役とし責任をもって活動する場があれば、どの子も自信を持って活動でき、さらに人とかかわりをもてば、相互評価能力が高まり、相手を思いやる心が育ったりするであろう。
- ③単元に道徳の授業を組み込んだり、話し合い活動を重視したりすることにより、自分のやりたいことや目標がはっきりとし、進んで自己表出するであろう。

#### 2 学習の実際

##### (1)集会・行事で成長する子どもたち

全校児童84人。四月になると6年生は、縦割り班の班長として否応なしにデビューする。「今までである行事をこなすだけでは、つまらない。自分たちで考えた行事を増やしていきたい。」と、クラス全体が燃えていた。

(2) 全校を動かす集会や行事は、ボランティアなの？

「6年生としての僕らあの活動は、ボランティアだらあ。お母さんが、言っとった。」この言葉がきっかけとなり、みんなでボランティアについて考えるようになった。「じゃあ、お母さんの仕事も、ボランティアなのかなあ。」答えは見つからなかった。

(3) 社会福祉協議会の宮川さんに相談した

児童会役員が赤い羽根共同募金を届に行つたついでに、代表で宮川さんに相談することになった。「ボランティアって、何だろう。」

宮川さんは「みんなの活動は、もう立派なボランティアだと思ふよ。地域に飛び出してみたらどうかな。初めの一步を踏み出したね。」と、アドバイスをくれた。

(4) チャンス。ここで道徳の授業が生きる

資料名は、『サマーボランティア』この授業のねらいは、自分は社会に役立つ存在であり、みんなの役に立とうとする意欲を高めるものである。実際に地域ボランティアで活動をしている宮本さんの話を聞く場も設定した。本物の体験に近づく第一歩となった。

(5) 地域ボランティア、活動開始！

学校の近くに、特別養護老人ホーム福寿園がある。子どもたちは、お年寄りが喜んでくれる訪問にしたいと、11月に行われた学芸会の出し物を練習し、披露した。終ってみると、満足度100%どころか、「次は、こうしたい。」との反省ばかりでできた。

そして、卒業を六日後に控え、もう一度訪問することになった。テーマは、お年寄りとおふれあうこと。一方的に見せるのではなく、一緒に歌ったり、かぶとを折ったり、車いすを押し、散歩をしたりするものであった。

#### 3 成果と今後の課題

子どもたちの思いや願いを大切に取り組んだ実践である。この思いが、中学生になってもパワーアップし、人格形成に役立てれば幸いである。